

高齢運転者による 死亡事故に係る分析 【広島県内】

令和2年6月

広島県警察本部

交通部交通企画課

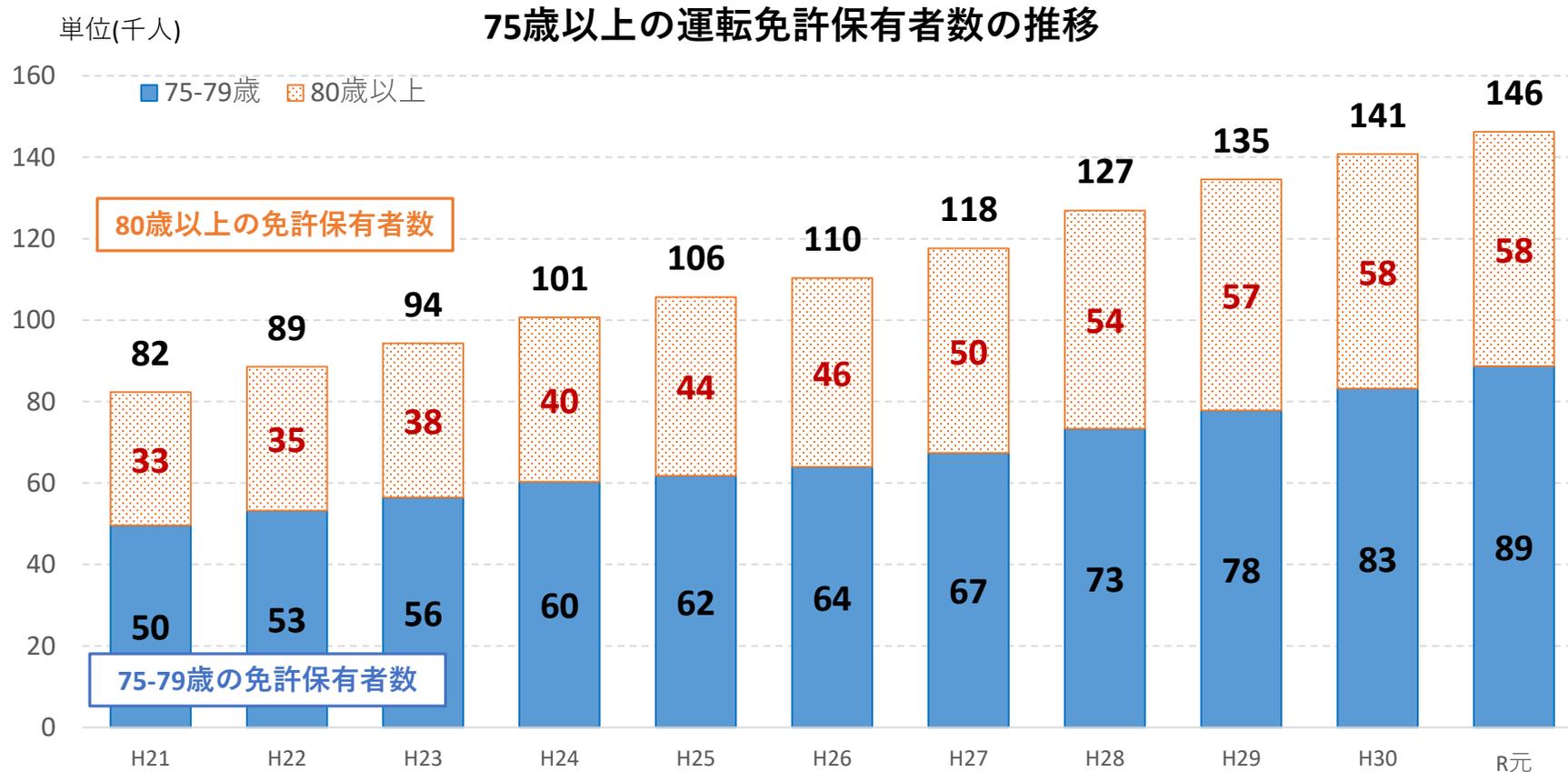
- 1 75歳以上の運転免許保有者数の推移
- 2 75歳以上高齢運転者による死亡事故件数の推移
- 3 免許人口当たりの死亡事故件数の推移
- 4 75歳以上高齢運転者の認知機能検査結果
- 5 75歳以上高齢運転者による死亡事故の類型別件数比較
- 6 75歳以上高齢運転者による死亡事故の人的要因別件数比較

(注) 数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

高齢運転者による死亡事故に係る分析（1）

～ 75歳以上の運転免許保有者数の推移 ～

- 令和元年の75歳以上の免許保有者数は、平成21年と比較して、75-79歳以上、80歳以上ともに約1.8倍に増加しており、免許保有者数は増加を続けている。

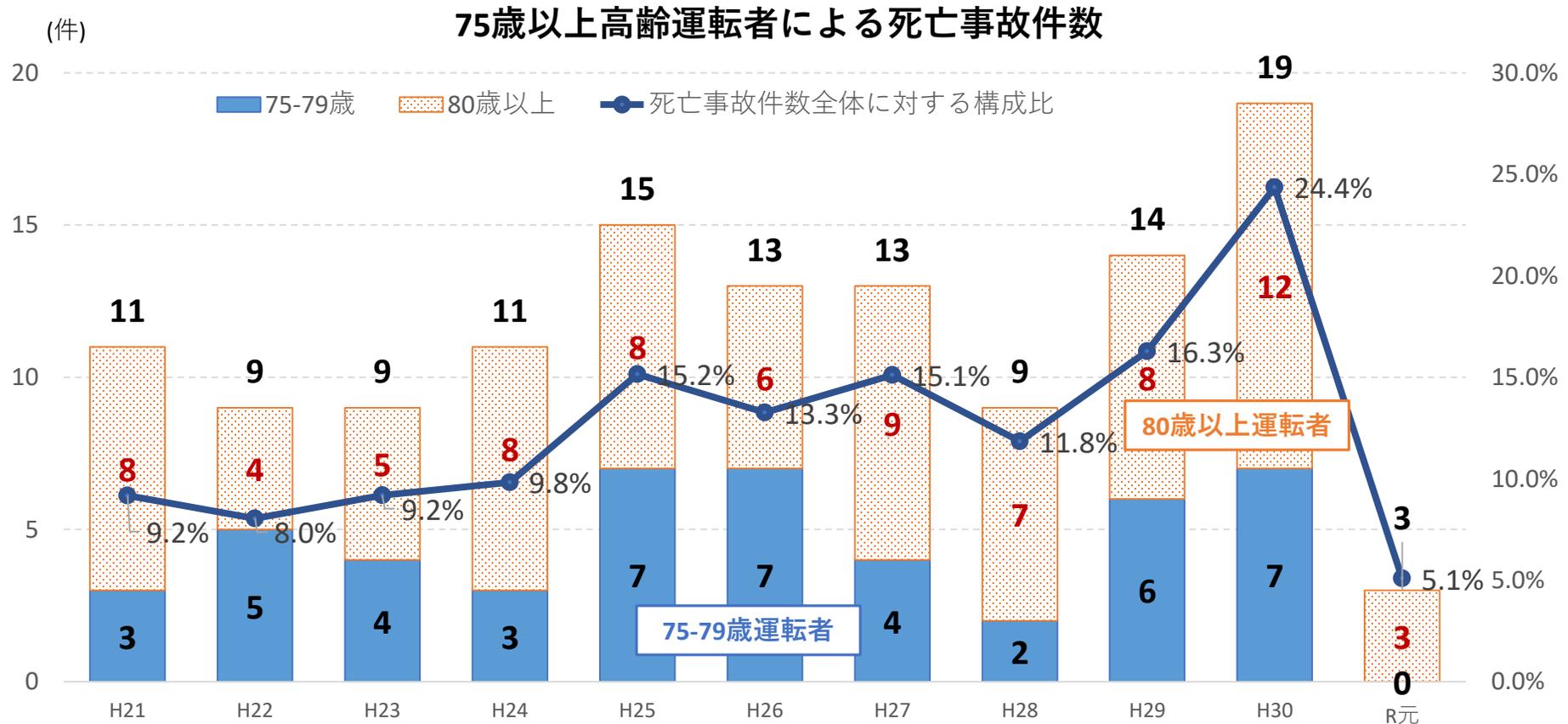


※各年12月末の運転免許保有者数である。

高齢運転者による死亡事故に係る分析（２）

～ 75歳以上高齢運転者による死亡事故件数の推移 ～

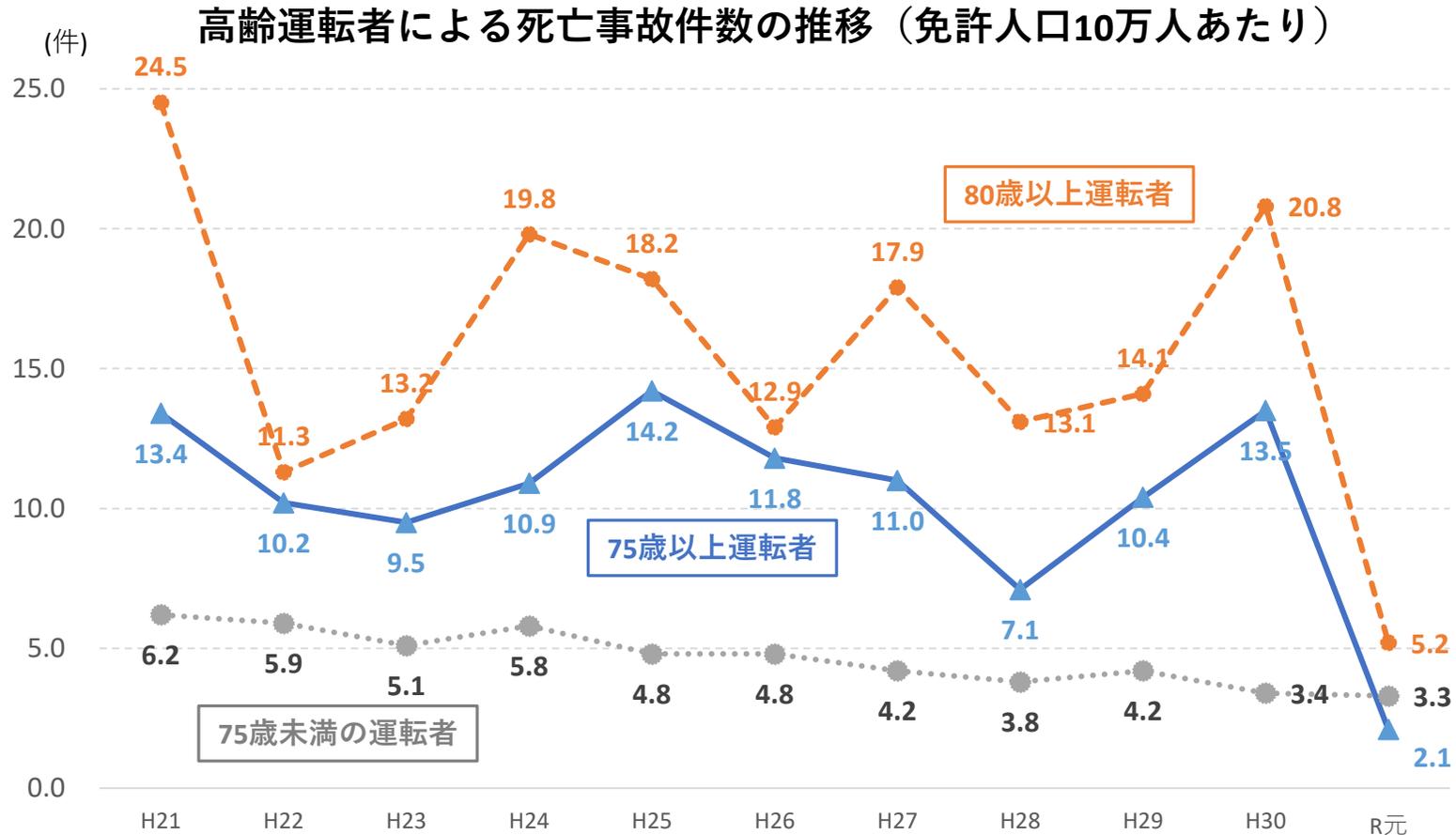
- 75歳以上の高齢運転者による死亡事故件数は、平成21年以降増加傾向にあり、平成30年は死亡事故全体の約4分の1が75歳以上高齢運転者による死亡事故であった。しかし、令和元年は大きく減少し、平成21年以降最少となった。



※第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による死亡事故に係る分析（3） ～ 免許人口当たりの死亡事故件数の推移 ～

- 免許人口10万人当たり死亡事故件数は、75歳未満の運転者は平成21年以降減少傾向にある。75歳以上及び80歳以上の高齢運転者は、増減を繰り返しながらも75歳未満運転者より数倍高い水準で推移していたが、令和元年は大きく減少した。



※各年12月末の運転免許保有者数で算出した。
※第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

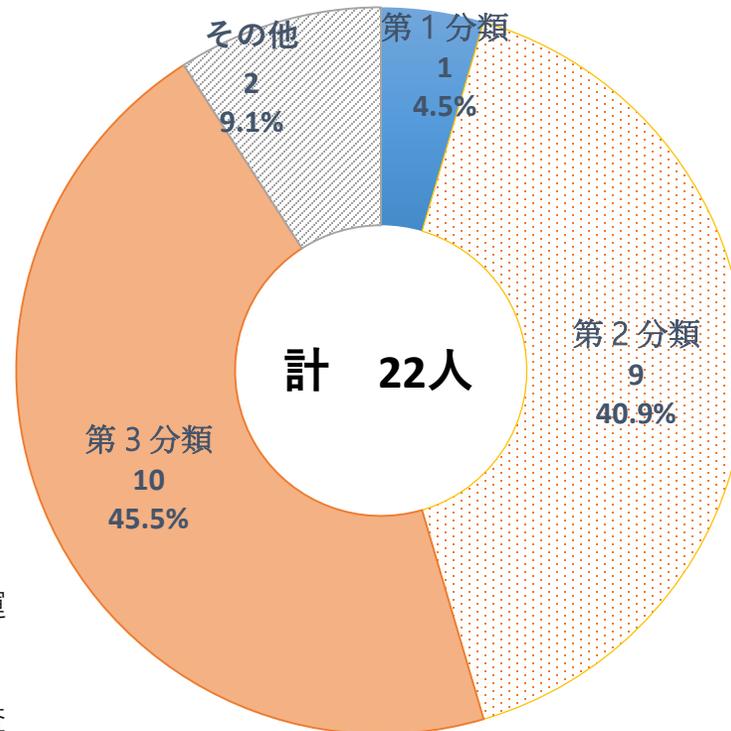
高齢運転者による死亡事故に係る分析（4）

～ 75歳以上高齢運転者の認知機能検査結果 ～

- 死亡事故の第1当事者となった75歳以上高齢運転者の認知機能検査結果は、認知機能の低下のおそれがない**第3分類が最も多く**、次いで認知機能の低下のおそれがある第2分類が多い。

75歳以上高齢運転者の認知機能検査結果

（平成30年，令和元年合計）



■ 第1分類

記憶力・判断力が低くなっている（認知症のおそれがある）

■ 第2分類

記憶力・判断力が少し低くなっている（認知機能の低下のおそれがある）

■ 第3分類

記憶力・判断力に心配がない（認知機能の低下のおそれがない）

※死亡事故の第1当事者となった原付以上75歳高齢運転者について集計している。

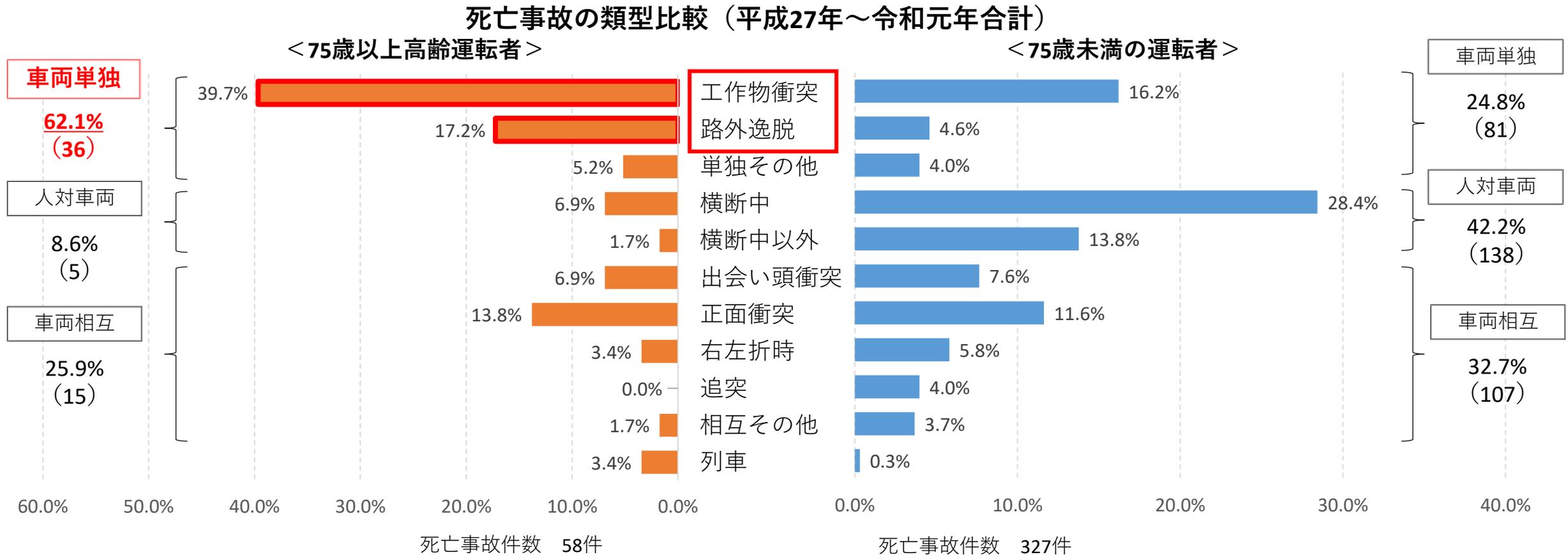
※分類は、事故直近の検査結果である。

※その他とは、事故時は75歳以上であったが未だ検査を実施していない場合等である。

高齢運転者による死亡事故に係る分析（5）

～ 75歳以上高齢運転者による死亡事故の類型別件数比較 ～

● 75歳以上の高齢運転者による死亡事故は、75歳未満の運転者と比較して、車両単独による事故が多くなっており、具体的には工作物衝突や路外逸脱が多く発生している。



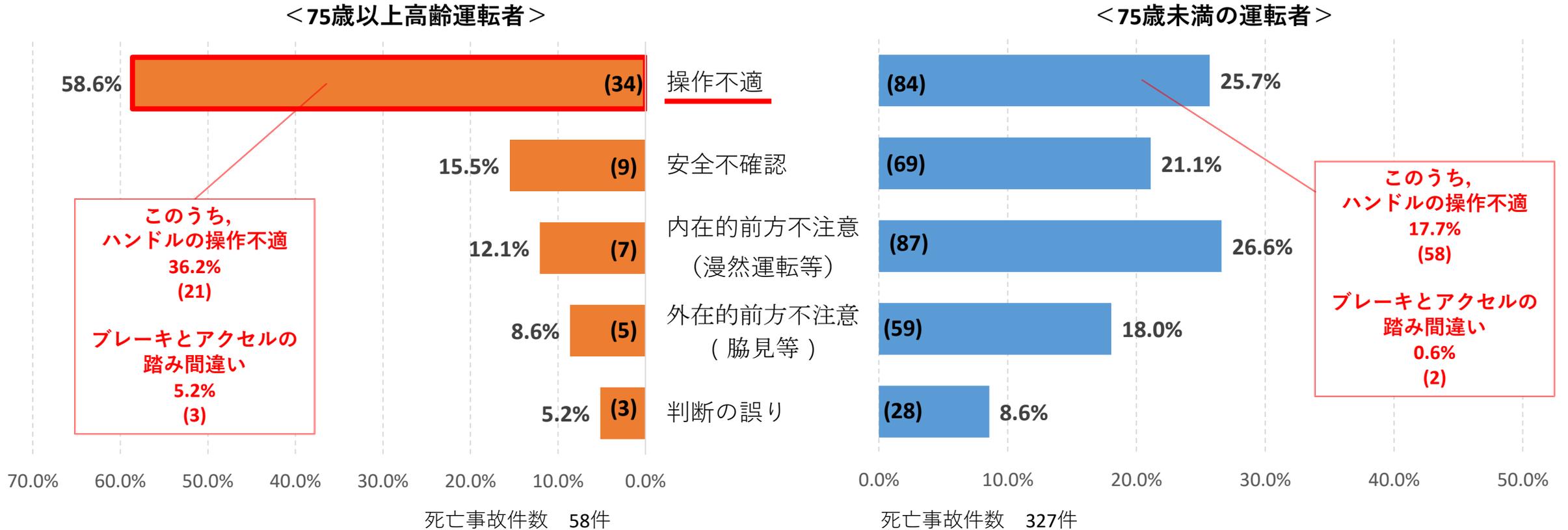
※第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による死亡事故に係る分析（6）

～ 75歳以上高齢運転者による死亡事故の人的要因別件数比較 ～

- 75歳以上の高齢運転者は、**操作不適による死亡事故が最も多い**。
- そのうち、ブレーキとアクセルの踏み間違い死亡事故は、75歳未満が全体の0.6%に過ぎないのに対し、75歳以上の運転者は5.2%と高い。

死亡事故の人的要因比較（平成27年～令和元年合計）



※第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。括弧内は死亡事故件数を表す。